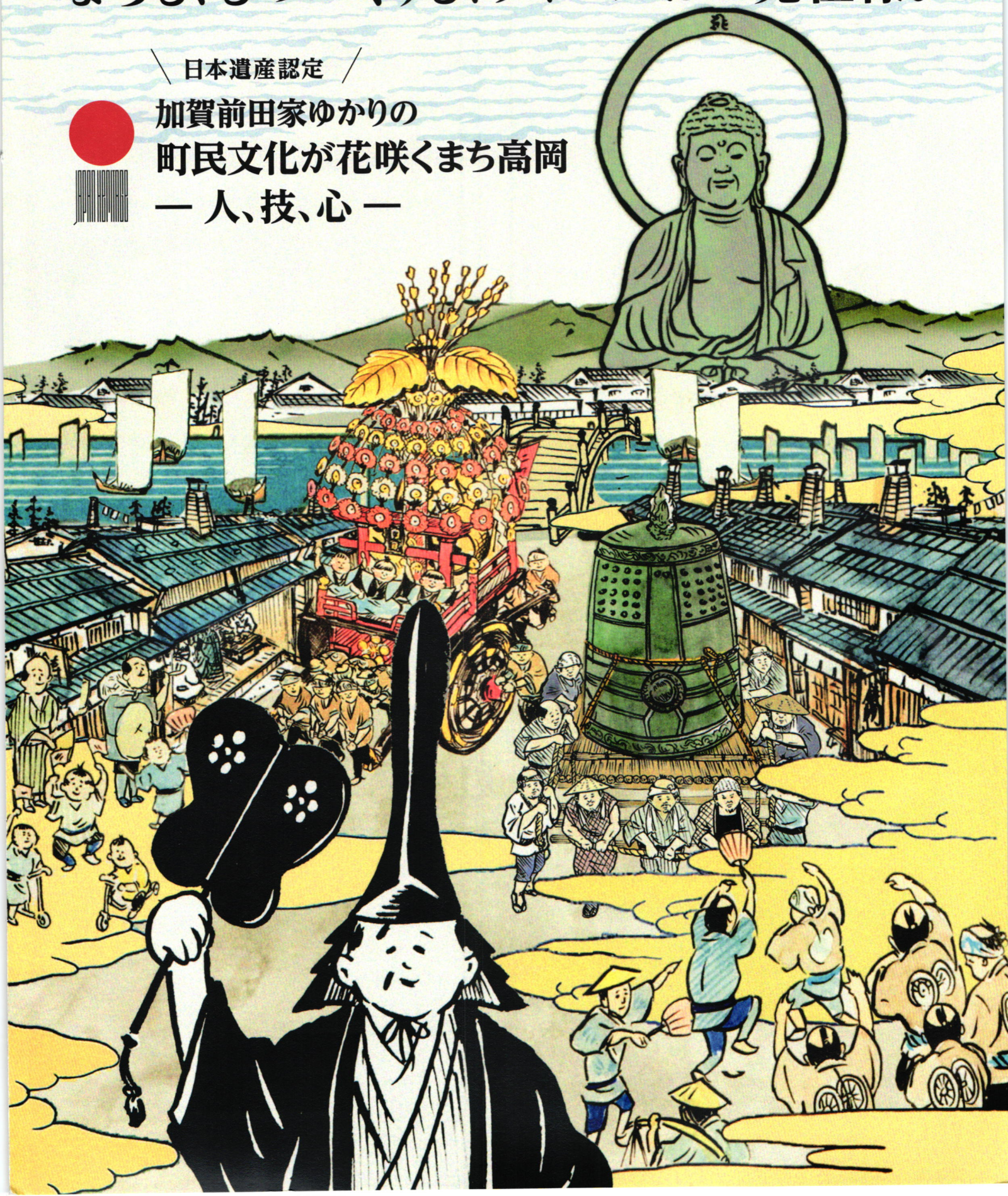


TAKAOKA

まちも、ものづくりも、ライバルはご先祖様。

日本遺産認定

加賀前田家ゆかりの
町民文化が花咲くまち高岡
— 人、技、心 —



加賀前田家ゆかりの 町民文化が花咲くまち高岡-人、技、心-の構成文化財

高岡の貴重な
文化財を巡ってみよう!



①瑞龍寺(国宝・重要文化財)



利常が立派なものを
建ててくれたんじや。

瑞龍寺は高岡開町の祖、前田利長の菩提を弔う曹洞宗のお寺。壮大な伽藍は、利常にとっては、自身を藩主へ拔擢してくれた並々ならぬ恩義があったため。高岡町民に利長の遺徳をしのばせ、併せてまちの繁栄を願い建立されました。

⑦・⑧高岡御車山・御車山行事



昔も今も、
町民の誇りなんだ。

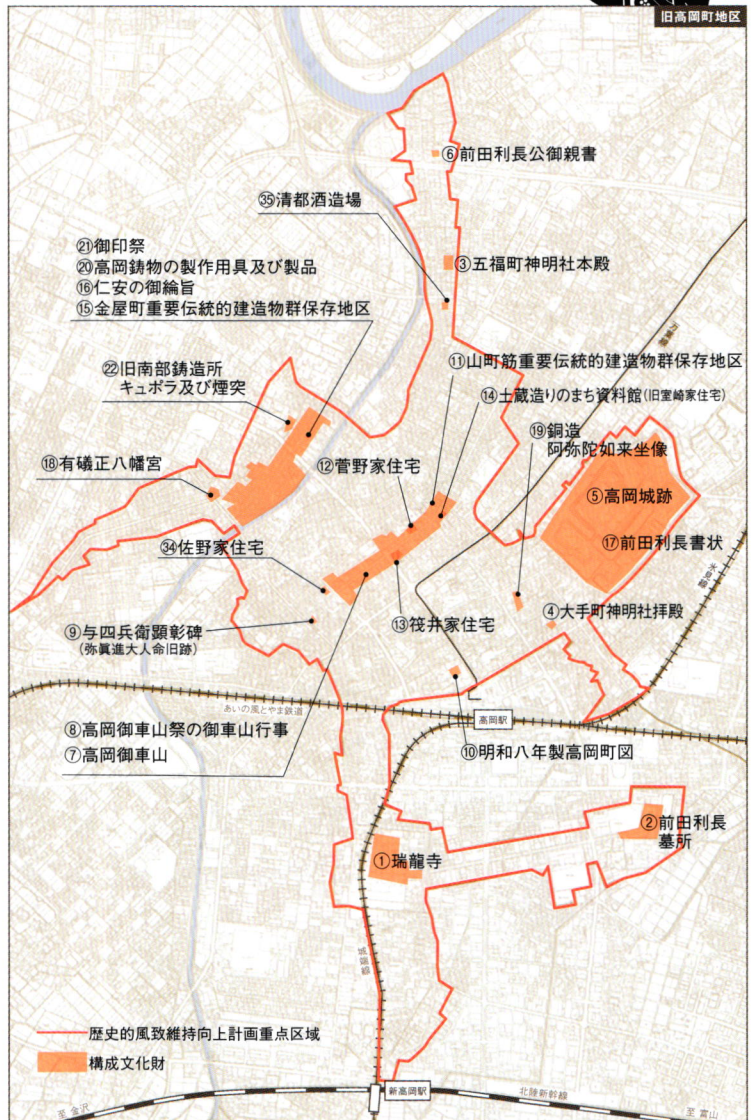
高岡の金工・漆工の粋を集め、高い美術工芸の価値を持つ7基の御車山。町民自らが富を投資し、祭りを楽しみ、地域経済を動かしてきた高岡の代表的行事。藩の政策として、普段の儉約から人々を解放し、不満を緩和する機会にも。

⑮金屋町重要伝統的建造物群保存地区



このまちに
7人の鋳物師が、
招かれたんだね!

金屋町は、高岡開町の際に前田利長が鋳物師を招き、鋳物づくりを行わせた鋳物師町。装飾品や美術工芸品としての銅鋳物が作られ、人々の多様なニーズに応える努力を続けたことで、一大生産地として発展を遂げました。



高岡の日本遺産を構成する文化財群。高岡市の中心部から広がり、市内のあちこちに息づく貴重な文化財は、まちの歴史を現代へと伝える宝物です。現地を訪ねて、大切な物語の一端に触れてみてはいかがでしょうか。

ストーリーの構成文化財一覧

- ① 瑞龍寺
- ② 前田利長墓所
- ③ 五福町神明社本殿
- ④ 大手町神明社拝殿
- ⑤ 高岡城跡
- ⑥ 前田利長公御親書
- ⑦ 高岡御車山
- ⑧ 高岡御車山祭の御車山行事
- ⑨ 与四兵衛顕彰碑(弥真進大人命旧跡)
- ⑩ 明和八年製高岡町図
- ⑪ 山町筋重要伝統的建造物群保存地区
- ⑫ 菅野家住宅
- ⑬ 筏井家住宅
- ⑭ 土蔵造りのまち資料館(旧室崎家住宅)
- ⑮ 金屋町重要伝統的建造物群保存地区
- ⑯ 仁安の御綸旨
- ⑰ 前田利長書状
- ⑱ 有正正八幡宮(本殿・拝殿及び幣殿)
- ⑲ 銅造阿弥陀如来坐像
- ⑳ 高岡鋳物の製作用具及び製品
- ㉑ 御印祭
- ㉒ 旧南部鑄造所キュボラ及び煙突
- ㉓ 梵鐘龍頭木型
- ㉔ 戸出御旅屋の門
- ㉕ 勝興寺
- ㉖ 伏木港(伏木浦)
- ㉗ 伏木北前船資料館(旧秋元家住宅)
- ㉘ 棚田家住宅
- ㉙ 能松家住宅
- ㉚ 有藤家住宅
- ㉛ 高岡商工会議所伏木支所
- ㉜ 伏木氣象資料館(旧伏木側候所庁舎測風塔)
- ㉝ 丸谷家住宅
- ㉞ 佐野家住宅
- ㉟ 清都酒造場
- ㊱ 越中福岡の菅笠製作技術
- ㊲ 菅笠問屋の町並み

高岡が、奇跡的な大転換に成功したって？

開町まもなく、最悪のピンチを 最高のチャンスに変えた、 お殿様と町民たちの物語。

ストーリー

認定された
ストーリー

加賀前田家ゆかりの町民文化が
花咲くまち高岡 一人、技、心一



いまから約400年前に加賀前田家二代当主の前田利長がこの地に高岡城を築いて、高岡の町が開かれました。しかし、開町からわずか5年で利長は他界し、一国一城令で廃城となった高岡城。三代当主の前田利常によって、その熱い遺志は受け継がれ、やがて、町民のまちへと大きな転換を遂げていったのです。最悪のピンチを、最高のチャンスに変えた、お殿様の英断と町民たちの心意気とは。

Story. 1

150日で高岡城を築城、 しかし、6年で廃城へ

利長の他界や、一国一城令によって、
城下町は消滅の危機へ



高岡は北陸を代表する米どころである砺波平野、射水平野を背後に控え、北は富山湾に面し、雨晴海岸からは海越しに3000メートル級の立山連峰を望むことができる、自然や食に恵まれたところ。古くは旧石器時代まで遡る人々の営みがありました。

現在の高岡の基盤は近世初期に形成されました。加賀前田家二代当主の前田利長は、若き頃に山城(守山城)から俯瞰し、この高岡の地が要害としての軍事的な機能だけでなく、水陸交通の要衝として経済的な機能を合わせ持つ理想的な地であると見抜きます。そして、慶長14年(1609)に隠居後の城として高岡城を築城。利長はこの地で築城できる機会を心待ちにし、驚異的な早さで建設工事を進めます。そして、築城開始からわずか150日ほどで入城するに至りました。

利長は下町の一角に、資材の集積と調達を行うための拠点(木町)を設けたり、砺波郡の西部金屋から7人の鋳物師を招き、鋳物づくりを行う鋳物師町(金屋町)をつくりました。鋳物師には地租を課さない厚い保護や特権を与え、鋳物づくりを奨励することで、城下町としての繁栄を図ったのです。

高岡城を創建して、その後、400余年に渡る高岡市の発展の土台を築き上げた利長でしたが、在城わずか5年で他界。家臣団はことごとく金沢に引き揚げ、さらに翌年の一国一城令により、高岡城は廃城という過酷な運命へ。城下町の歩みを始めていた高岡は、たちまち絶望の淵に突き落とされたのでした。

城下町としての存続の危機に陥った高岡。そこで、三代当主・前田利常は、活を入れて高岡のまちの立て直しに着手します。高岡町民の他所転出を禁じ、高岡を麻布の集散地へ。さらに、御荷物宿、魚問屋や塩問屋の創設を認め、城跡内には米蔵と塩蔵を設置するなど、商業都市への転換策を積極的に講じました。

利常は、商業都市への政策転換を進める上でも、利長が築き上げた町割りなどを活かした形で行いました。異母弟である自分に家督を譲った利長への恩義を深く感じ、利長の菩提のために壮大な伽藍建築の瑞龍寺や、異例の規模を誇る墓所もつくりました。利長の遺徳をしのぶだけでなく、まちの繁栄を願って建立したのです。

また、利常は高岡が軍事拠点としての機能を失うことがないように、高岡城内には平和的利用として米塩の藩蔵を建てました。これにより、幕府に干渉の口実を与えず、いざというときに備えて、城の郭や堀は完全な形で残すことに成功しました。利常の優れた経営手腕は、高岡に数多く残る関連文化財群に垣間見ることができます。

Story.2

武士のまちから、 町民のまちへの大転換

利長が抱いた希望を受け継ぎ、
まちを存続させるため
商業政策を次々と打ち出す！



Story.3

「加賀藩の台所」として 隆盛を極めた高岡

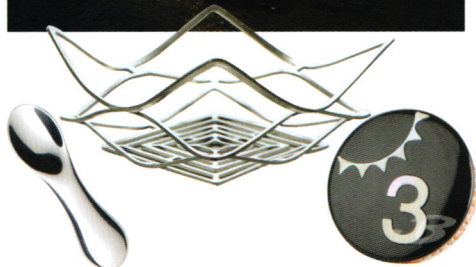
絢爛豪華な装飾を
まちごとに競い合う御車山は、
町民の心意気そのもの

高岡町民も利常の保護と期待に応え、高岡は商人・職人のまちとして、着実に歩みはじめました。鋳物づくりでは最初は、鍋・釜などの生活用具、農具の鉄器具類が多くつくられ、次第に、香炉・花瓶・火鉢・仏具などの文化的な品物の需要が高まり、装飾に富んだ製品を製造。銅器製造が盛んになると、北前船(バイ船)で全国各地に販路を確保し、海外貿易にも進出。伏木港は加賀藩全体の物資の集散地となり、北前船の寄港地としても栄え、高岡は「加賀藩の台所」として隆盛を極めました。

そうして財を成した豪商たちが絢爛たる装飾を競い合ったのが、御車山祭。7基の御車山には彫金・漆工・染織など高岡の伝統工芸の粋を集めた豪華な装飾が施されました。長年、まちごとに競い合うなかで現在のような豪華なものに。ともにまちの発展に貢献してきた町民の心意気の象徴です。



伏木港は加賀藩の物資の集積地となり、北前船の寄港地として繁栄。高岡は商人のまちとして、隆盛を極め、御車山もさらに豪華なものへ。



デザイナーとのコラボによる商品開発や、工場見学ツアーの実施など、高岡の職人・商人は日々あらたな挑戦を続けています。

Story.4

開町以来、熱く燃える
ものづくりへの思いは、
最先端のデザインへとつながった！
町民の心意気と、
ものづくりの魂をこれからも

高岡の発展は町民自身が担い手となり、地域に富を還元してきたことが特長です。近代以降、明治の文明開化など時代の変遷を経ても、町民は商売の実力を存分に発揮。事実、維新後は県庁所在地ではないハンディキャップを負いながらも、常に日本海側屈指の商工都市として気を吐いてきました。また最近では、鋳物業などの伝統産業は、繊細な技術や暮らしに合った最先端のデザインで、全国的に注目を集めています。現在でも、町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに町民の歩みが独特の気風として色濃く残る高岡。町民の心意気は、いまも人々に受け継がれています。でも、高岡はまだ発展の途上。歴史資産を活かした新たな文化や魅力の創造に、力強く歩きはじめています。